

# 山口 鶯子（やまぐち・おうし）

## 1、プロフィール

はじめ月並俳諧の宗匠であったが、のち野辺地の地に日本派俳人を集めて笹鳴会、菅菰会を結成し活躍した。河東碧梧桐は、鶯子の真摯な俳人の生き方に注目していた。

<生没>

1873(明治6)年7月15日 ~ 1907(明治40)年12月18日

<代表作>

『鶯子句集』

<青森との関わり>

野辺地村(現野辺地町)に生まれ、旧派俳諧の宗匠から日本派俳人として活躍、新風をもたらした。

## 2、作家解説

明治6年7月15日、野辺地村(現野辺地町)に生まれた。料理屋を営むかたわら、若くして旧派俳諧に親しみ、宗匠となる。しかし、日本派俳句が伝播した際、いち早く野坂十二樓とともに笹鳴会を結成、日本派俳句に取り組んだ。明治33年のことである。のちに、松本金鶏城や中村泰山を育てた。新聞「日本」の日本俳句欄には、34年から39年までに190句が掲載されている。これは県俳人では、紅緑、山梔子に次ぐ掲載句数である。

36年には県内活版印刷では初の俳句同人雑誌「菅菰」を菅菰会名で発行した。現在創刊号から第5号までの刊行が確認されている。「菅菰」には県内俳人はもとより、秋田県や岩手県の俳人のほか河東碧梧桐などの中央俳人の寄稿もあった。

40年1月に三千里の旅の途中にあった碧梧桐を野辺地に迎え、俳句会を毎夜開催して薫陶を受けた。俳句会は8回を数えた。のちに碧梧桐が浅虫に冬籠りしてからも、鶯子らは訪れて俳句会を行った。

同年12月18日、病気により死去。

大正2年1月に中村泰山の手により『鶯子句集』が刊行された。

### 3、資料紹介

#### ○『鶯子句集』

図書

1913(大正2)年1月25日(復刻)

180mm×105mm

大正2年1月25日、発行者野辺地町中村泰三(泰山)。鶯子の遺影と俳句墨跡のほか、河東碧梧桐の序文がある。碧梧桐選67句が収録されている。活版印刷では県内最初の個人句集。